

## 1.調査目的等

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。  
 そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。  
 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

## 2.学校ごとの指標

### 【短期指標】

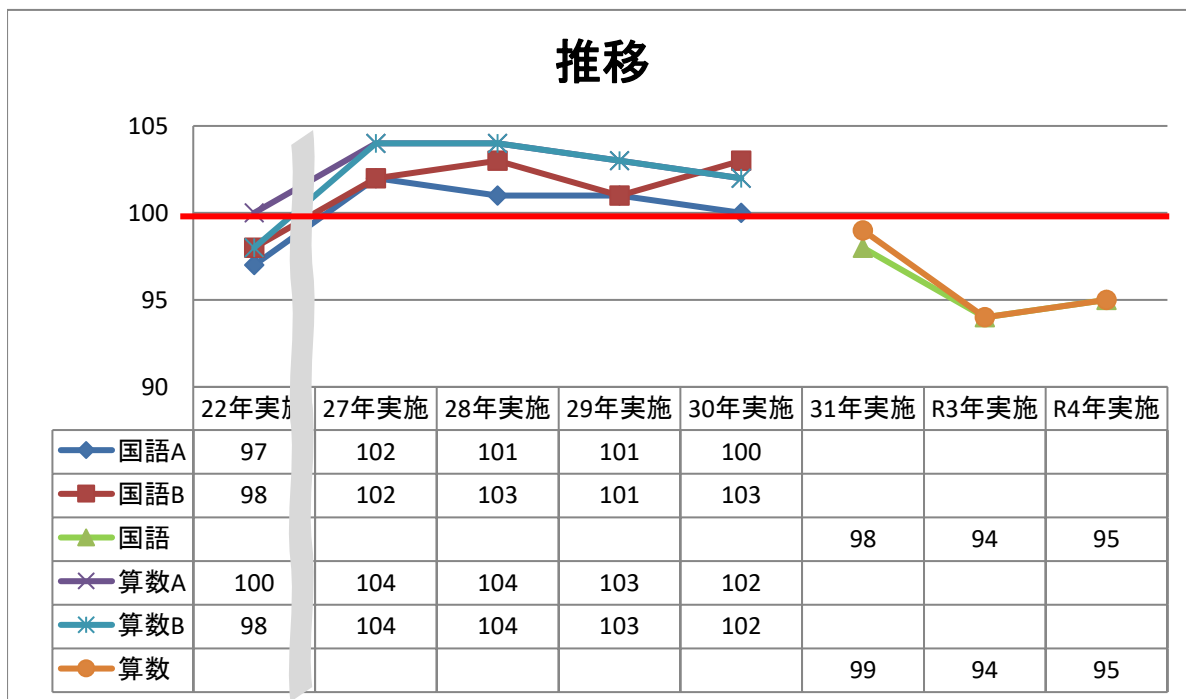
目標値：国語科・・・98以上、算数科・・・98以上（全国を100とした文科省標準化得点）

## 3.指標に向けての取組

- 正答率の低かった問題の内容・趣旨の共通理解及び児童の実態分析
- 授業の中での思考を伴う書く活動の位置付け
- 児童が落ち着いて学習に取り組むことができるための環境整備
- 算数科を中心に、特に学力の個人差が大きい学年での複数体制による指導
- C・D層の児童の基礎学力の定着に向けたチャレンジタイムの設定

## 4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	算数
本校	95	95
嘉麻市	98	97
全国	100	100



※ 平成31年度実施から「知識に関する問題(A問題)」と「活用に関する問題(B問題)」を一体的に問う形式に変更

## 5.各学校における分析

- 国語科・算数科ともに、短期指標の目標値に達していない。特に、記述式の問題の正答率が低い。また、学力中低位層の割合も全国の数値に比べ、高い。
- 国語科…どの領域も全国の数値を下回っている。特に、「話すこと・聞くこと」「書くこと」に課題がある。
- 算数科…どの領域も全国の数値を下回っている。特に、「図形」「変化と関係」に課題がある。

## 6.各学校における今後の取組

- 校内での研究では算数科を中心に、授業の導入段階(問題提示の仕方)・展開段階(思考を促す手立て)・終末段階(振り返りの位置づけ)を工夫した授業づくりを行う。※1単位時間内に書く活動を行う。
- 学力の個人差が大きい算数科を中心に、複数体制による指導を継続する。
- 基礎学力定着(特に、C・D層の児童)のために、継続して全学年週に1時間のチャレンジタイムを行い、テキストや補充プリントを活用しながら、読解力や計算力を向上する。
- 家庭学習においては、自学(自主学習)を奨励し、お手本となるモデルを提示したり、賞賛したりしながら家庭学習の習慣化を図る。
- 学校生活の1日のスタートを落ち着いて過ごせるために、始業とともに10分間の読書活動を継続して取り組む。

## 7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。
- ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。
- ◆学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。
- ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流する場を設定する。